

ネアカヨシヤンマ *Aeschnophlebia anisoptera* Selys

【選定理由】

旧市町村単位の絶滅率は38%、現存数は13であり、準絶滅危惧に相当する。

【形態】

アオヤンマに類似した黒みの強い大型のヤンマである。ハネの基部に橙色斑があり、またヨシ原に生息することと併せて「根赤+葦」と名付けられた。



♂. 長久手町三ヶ峯, 2008年6月17日, 大野 徹 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

尾張～三河の平地から丘陵地にかけての21市町村で記録されている。

【国内の分布】

本州中部から九州中部にかけて分布し、対馬等の離島でも記録されている。

【世界の分布】

中国に分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

成熟成虫は、谷戸や湿地上を黄昏飛翔（早朝または夕方に飛翔）するのが見られる。未熟成虫は、晴れた午前中に開けた谷間や林縁などの高所で摂食飛翔するのを他県で観察している。幼虫は、林縁にある小池や湿地などの浅い水たまりの植物につかまっている。

成虫は6月頃より羽化し、成熟成虫は7～8月を中心に生殖行動を行なう。1年1化である。

【現在の生息状況／減少の要因】

現在は、主に尾張東部から西三河にかけての平野から丘陵地を中心に、広く薄く現存する。都市近郊でもいくつかの新産地が発見されているのが特徴的である。そのうちの一箇所は弥富市の緑地で、以前から定着していたとは考えにくく、どこかから飛来した個体が同所で一時的に発生した可能性が高い。2019年に発見された設楽町（旧津具村）の産地は標高600m超の山間部にあり、従来産地と30km以上隔離された分布を示す。

本種は大きな池沼に生息することはあまりなく、時には干上がってしまうような浅い小さな池や湿地を好む傾向にある。それらは丘陵地の林縁にあることが多いので、都市近郊では、そのような目立たない水域は造成により埋め立てられやすく、大きな絶滅要因となっている。

【保全上の留意点】

- 1) 幼虫の生息域である林縁の小池・湿地の保全
- 2) 成虫の休息域となる水域周辺の林の確保
- 3) 幼虫を捕食するアメリカザリガニの排除

【特記事項】

本種幼虫は地図に掲載されないような小さな水域を好むため生息地の探索はかなり困難である。さらに成虫は黄昏飛翔性が強いので、日中の探索では非常に発見しづらい。全国的に分布の限定されるヤンマとされてきたが、他県でも都市近郊の小湿地などで発見されるケースが散見される。

(吉田雅澄)

県内分布図

